

市内基幹バスOD調査に基づく
利用状況について

令和2年3月

瀬戸市

目 次

1 バス停別乗降者数の推移

- (1) 瀬戸北線 1
- (2) 水野循環線・みずの坂線 3
- (3) 赤津線 5

2 便別利用者数の推移

- (1) 瀬戸北線 8
- (2) 水野循環線・みずの坂線 9
- (3) 赤津線 10

※OD調査とは

名鉄バス株式会社がバス停別、便別に利用者の乗降状況等を把握するため、毎年5月の平日2日間にOD調査（起終点調査）を実施しています。

令和元年度については、5月16日（木）、及び17日（金）の2日間で調査を行い、バス停別乗降者数の推移、便別利用者数の状況を取りまとめたものです。

(参考)

市内基幹バス3路線（瀬戸北線、水野循環線・みずの坂線、赤津線）を含む

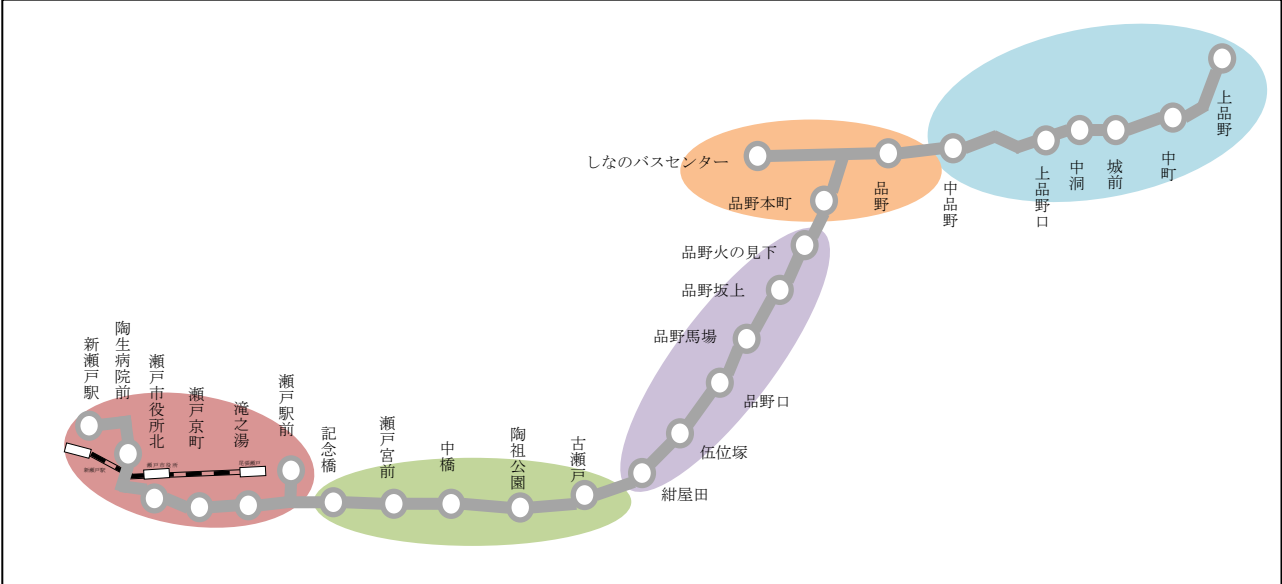


1 バス停別乗降者数の推移

(1) 瀬戸北線

平成24年度から令和元年度の各年度における瀬戸北線のOD調査による乗降者数を、“中品野～上品野区間”（中品野～上品野）、“しなのバスセンター周辺区間”（品野本町～品野）、“紺屋田～品野火の見下区間”（紺屋田～品野火の見下）、“赤津線重複区間”（記念橋～古瀬戸）、“中心的生活拠点区間”（新瀬戸駅～瀬戸駅前）、の区間ごとに集計した。

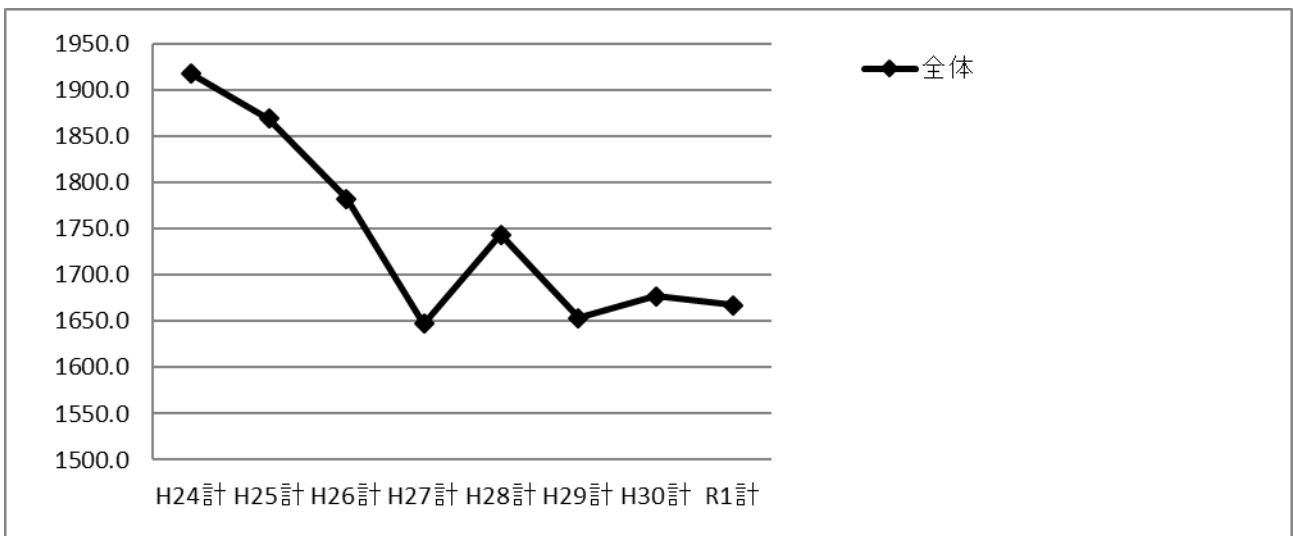
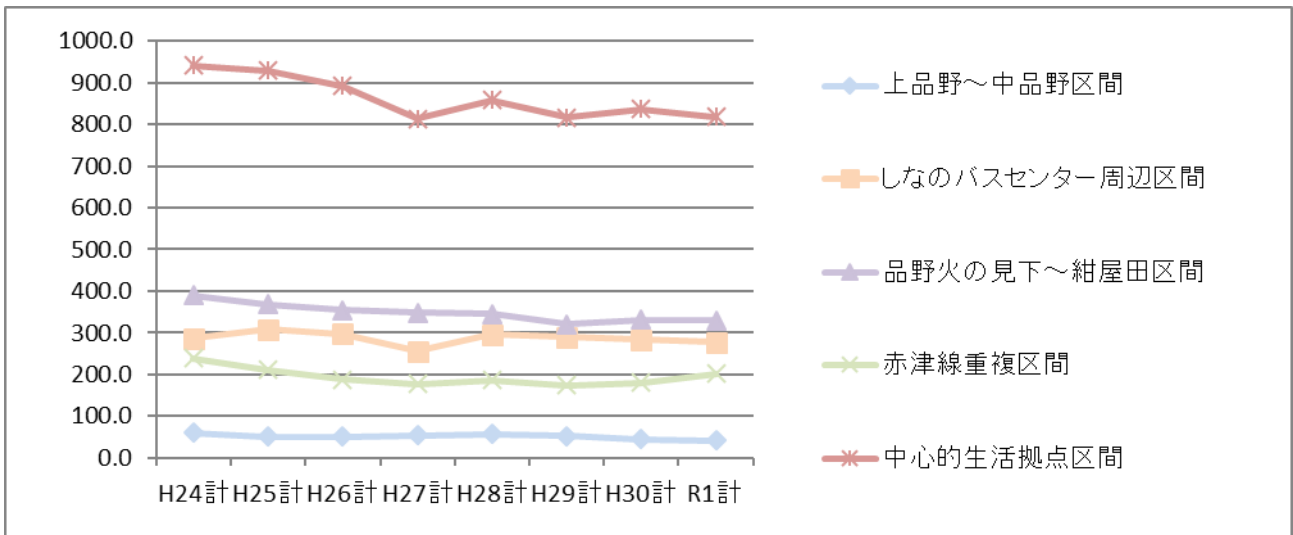
▼瀬戸北線路線図（令和元年度）



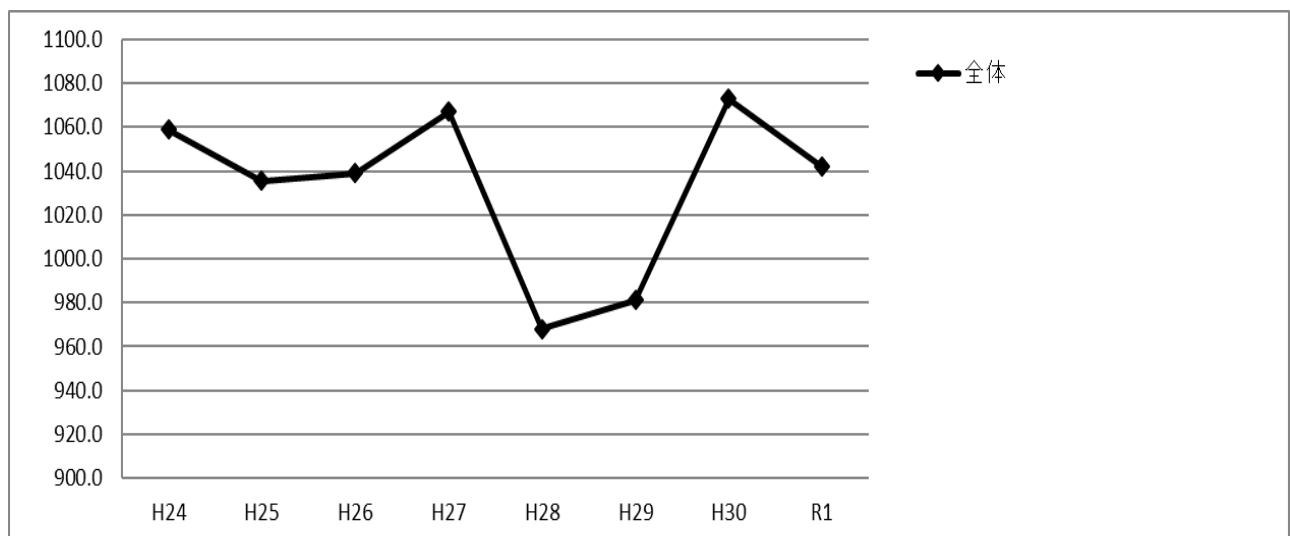
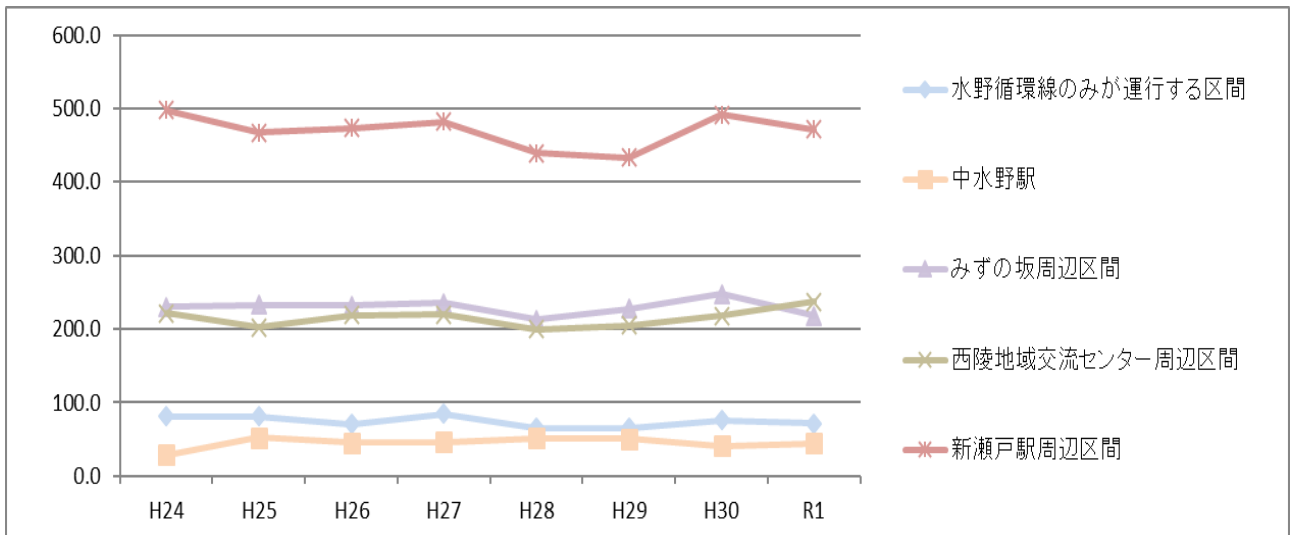
▼瀬戸北線のバス停別乗降者数の推移（人/日）

区間	No	停留所名	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	H24計	H25計	H26計	H27計	H28計	H29計	H30計	R1計
上品野～中品野区間	1	上品野	10.0	9.0	7.0	6.5	6.5	4.0	5.0	5.0	60.5	51.5	50.5	54.0	57.0	52.0	45.0	41.0
	2	中町	12.0	7.0	7.5	5.0	5.5	7.5	4.5	3.5								
	3	城前	6.5	8.5	7.0	8.5	8.5	12.0	7.5	7.0								
	4	中洞	9.5	5.0	6.5	7.5	5.5	4.5	4.5	5.5								
	5	上品野口	11.5	8.0	11.0	13.5	16.0	10.5	8.5	8.5								
	6	中品野	11.0	14.0	11.5	13.0	15.0	13.5	15.0	11.5								
しなのバスセンター周辺区間	7	品野	64.0	87.0	83.5	63.5	68.5	63.0	66.0	64.0	287.0	308.5	297.0	255.0	296.0	290.0	283.0	277.0
	8	しなのバスセンター	124.0	117.0	123.5	110.5	141.5	142.0	146.0	131.0								
	9	品野本町	99.0	104.5	90.0	81.0	86.0	85.0	71.0	82.0								
品野火の見下～紺屋田区間	10	品野火の見下	47.0	58.5	47.5	58.0	44.0	43.0	57.0	54.0	389.5	367.5	354.0	348.0	345.5	320.0	331.5	329.0
	11	品野坂上	108.0	91.0	104.0	96.5	89.5	88.5	93.0	87.0								
	12	品野馬場	43.5	32.5	29.0	30.5	38.0	26.0	31.0	40.0								
	13	品野口	82.0	78.0	62.5	67.0	69.0	53.0	62.0	57.5								
	14	伍位塚	94.5	90.0	87.0	78.0	88.5	92.5	71.5	74.0								
	15	紺屋田	14.5	17.5	24.0	18.0	16.5	17.0	17.0	16.5								
赤津線重複区間	16	古瀬戸	63.0	61.5	61.5	55.0	53.5	56.5	51.5	62.0	238.5	211.5	188.0	177.0	187.0	174.5	180.5	202.5
	17	陶祖公園	69.5	50.5	51.0	44.0	54.5	52.5	61.0	56.5								
	18	中橋	28.0	21.5	12.0	20.0	29.0	25.0	25.0	22.0								
	19	瀬戸宮前	44.5	19.0	29.5	36.5	29.5	23.5	30.5	37.0								
	20	記念橋	33.5	59.0	34.0	21.5	20.5	17.0	12.5	25.0								
中心的生活拠点区間	21	瀬戸駅前	582.0	623.5	609.5	554.5	576.0	552.5	566.5	553.5	941.5	929.5	892.5	813.0	857.5	816.5	837.0	817.5
	22	滝之湯	11.5	12.0	8.5	12.5	9.5	12.5	11.0	8.0								
	23	瀬戸京町	25.5	24.0	29.5	22.5	18.0	22.5	23.5	16.5								
	24	瀬戸市役所北	26.0	37.5	11.5	16.5	20.0	11.5	12.5	20.0								
	25	陶生病院前	105.5	91.5	94.0	92.0	90.0	74.5	88.5	84.0								
	26	新瀬戸駅	191.0	141.0	139.5	115.0	144.0	143.0	135.0	135.5								
合計			1,917.0	1,868.5	1,782.0	1,647.0	1,743.0	1,653.0	1,677.0	1,667.0	1917.0	1868.5	1782.0	1647.0	1743.0	1653.0	1677.0	1667.0

※調査を実施した2日間の平均値



- ・ OD 調査（2 日間実施）における、瀬戸駅前の乗降者数は近年減少が続いている。
 （H25：623.5 人/日 → R1：553.5 人/日）
 とくに、通勤通学の時間帯で乗降者数の減少がみられる。
- ・ しなのバスセンター（131.0 人/日）、品野本町（82.0 人/日）、品野坂上（87.0 人/日）、
 伍位塚（74.0 人/日）において、OD 調査における乗降者数が多く、その利用者の多
 くが瀬戸駅前で降車している。
- ・ 品野馬場の OD 調査における乗降者数は H29 年以降、増加がみられる。
 （H29：26.0 人/日 → R1：40.0 人/日）
 品野馬場バス停近辺の窯町で、宅地開発が進んだことも一つの要因として考えられ
 る。
- ・ 古瀬戸、瀬戸宮前など、高齢化率の高い地域で、乗降者数の増加がみられるバス停
 もある。（例：古瀬戸 H28：53.5 人/日 → R1：62.0 人/日）

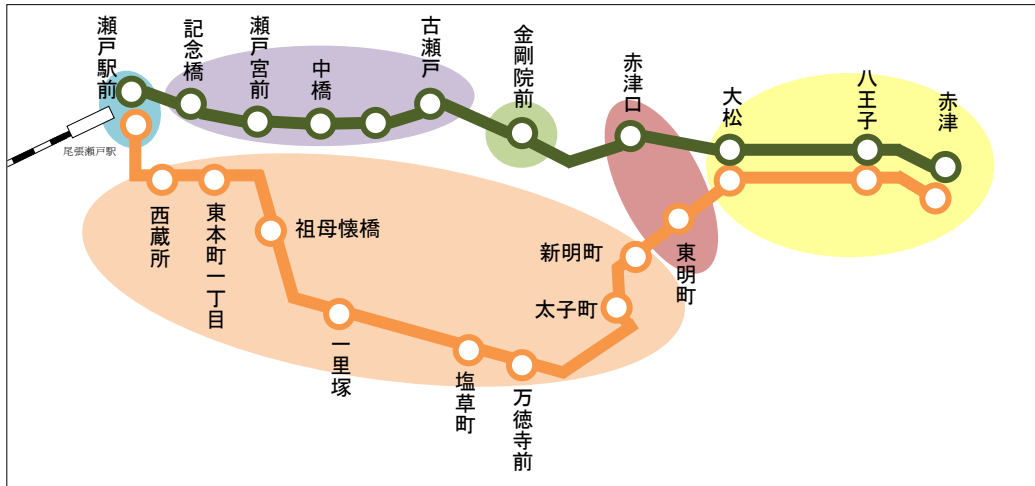


- OD調査における、水野循環線・みずの坂線全体の乗降者数は、H28年(970人/日)、H29年(980人/日)で一度減少がみられたものの、H30年(1070人/日)、R1年(1040人/日)では乗降者数の増加がみられる。
 はぎの台、上水野、南山中学前の乗降者数増が一つの要因である。
- 上水野バス停からのOD調査における乗降者数は、H29年に一度減少がみられた(H29年:30.5人/日)ものの、H30年以降は増加している(R1年:44.0人/日)。
 上水野バス停付近で宅地開発が進んだことも一つの要因として考えられる。
- 西陵地域交流センター周辺区間では、OD調査における乗降者数が237人/日であり、他の区間に比べて乗降者数が多くみられた。
 とくに、西陵地域交流センター前からの乗降者数が多い。

(3) 赤津線

平成24年度から令和元年度までの各年度における赤津線のOD調査による乗降者数を、“尾張瀬戸駅”（瀬戸駅前）、“一里塚経由のみが運行する区間”（西蔵所～新明町）、“瀬戸北線と重複する区間”（記念橋～古瀬戸）、“古瀬戸経由のみが運行する区間”（金剛院前）、“両路線の停留所が近い区間”（東明町、赤津口）、“両路線が運行する区間（大松～赤津）”の区間ごとに集計した。

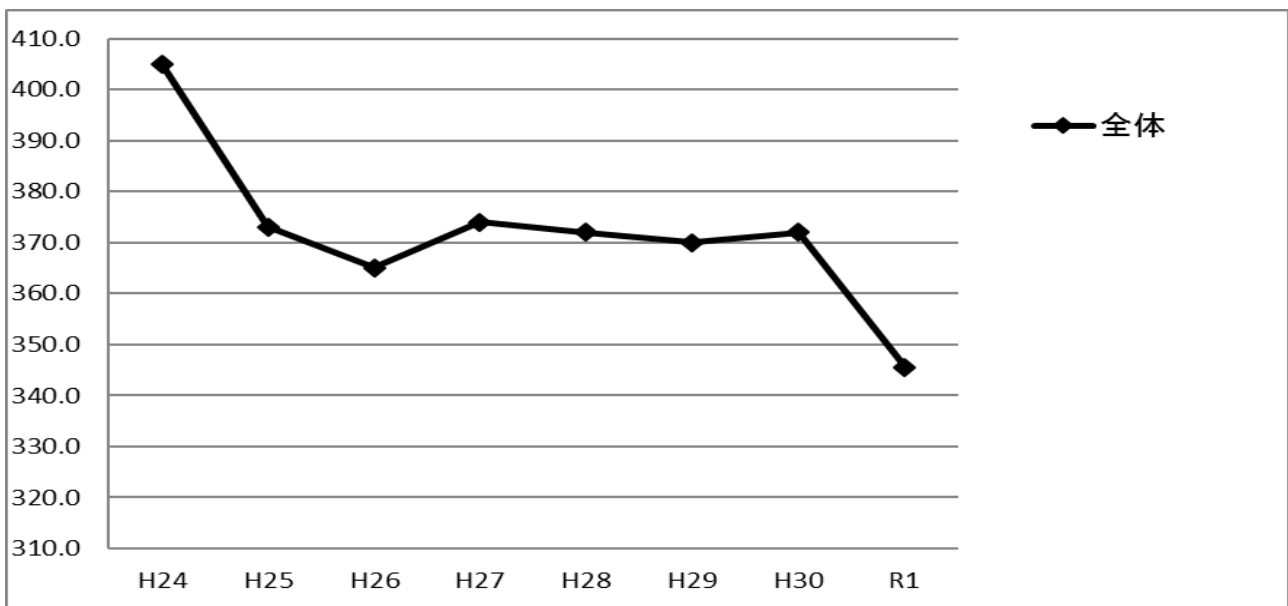
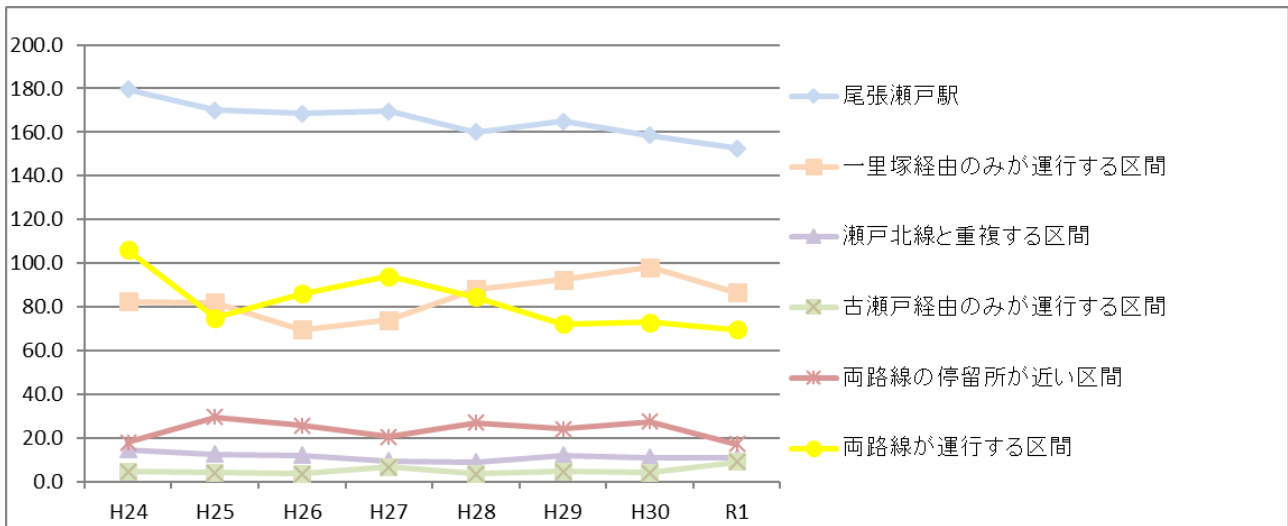
▼赤津線路線図（令和元年度）



▼赤津線のバス停別乗降者数の推移（人/日）

区間	No	停留所名	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	H24計	H25計	H26計	H27計	H28計	H29計	H30計	R1計
尾張瀬戸駅	1	瀬戸駅前	179.5	170.0	168.5	169.5	160.0	165.0	158.5	152.5	179.5	170.0	168.5	169.5	160.0	165.0	158.5	152.5
一里塚経由のみが運行する区間	2	西蔵所			2.0	3.5	9.0	5.5	9.0	8.0	82.5	82.0	69.5	74.0	88.0	92.5	98.0	86.5
	3	東本町一丁目	9.0	7.0	4.5	6.5	10.5	7.0	8.0	4.0								
	4	祖母懐橋	13.0	7.5	4.0	6.5	4.5	8.0	7.5	9.5								
	5	一里塚	10.0	16.5	11.0	13.0	15.0	16.5	12.0	16.0								
	6	塩草町	18.0	16.5	17.5	12.0	14.0	23.0	19.5	14.5								
	7	万徳寺前	9.0	11.0	10.0	18.5	12.5	12.0	19.0	11.0								
	8	太子町	6.0	6.0	2.0	2.0	7.0	6.0	5.5	7.0								
	9	新明町	17.5	17.5	18.5	12.0	15.5	14.5	17.5	16.5								
瀬戸北線と重複する区間	10	記念橋	2.0	2.0	1.5	0.5	1.0	1.5	0.5	0.0	14.5	12.5	12.0	9.5	9.0	12.0	11.0	11.0
	11	瀬戸宮前	3.5	1.0	2.0	2.0	1.0	2.0	4.5	3.5								
	12	中橋	1.0	2.0	0.0	1.5	1.0	0.5	0.5	3.0								
	13	陶祖公園(瀬戸公園)	3.5	3.0	3.5	3.5	1.0	3.5	2.5	1.0								
古瀬戸経由のみが運行する区間	14	古瀬戸	4.5	4.5	5.0	2.0	5.0	4.5	3.0	3.5	4.5	4.0	3.5	6.5	3.5	4.5	4.0	9.0
	15	金剛院前	4.5	4.0	3.5	6.5	3.5	4.5	4.0	9.0								
両路線の停留所が近い区間	16	東明町	12.5	22.0	16.0	14.0	17.0	19.0	18.0	10.5	18.0	29.5	25.5	20.5	27.0	24.0	27.5	17.0
	17	赤津口	5.5	7.5	9.5	6.5	10.0	5.0	9.5	6.5								
両路線が運行する区間	18	大松	47.5	40.5	50.5	52.0	51.0	38.5	45.5	40.0	106.0	75.0	86.0	94.0	84.5	72.0	73.0	69.5
	19	八王子	28.0	21.5	23.5	27.5	22.5	21.5	13.5	14.5								
	20	赤津	30.5	13.0	12.0	14.5	11.0	12.0	14.0	15.0								
		合計	405.0	373.0	365.0	374.0	372.0	370.0	372.0	345.5	405.0	373.0	365.0	374.0	372.0	370.0	372.0	345.5

※調査を実施した2日間の平均値



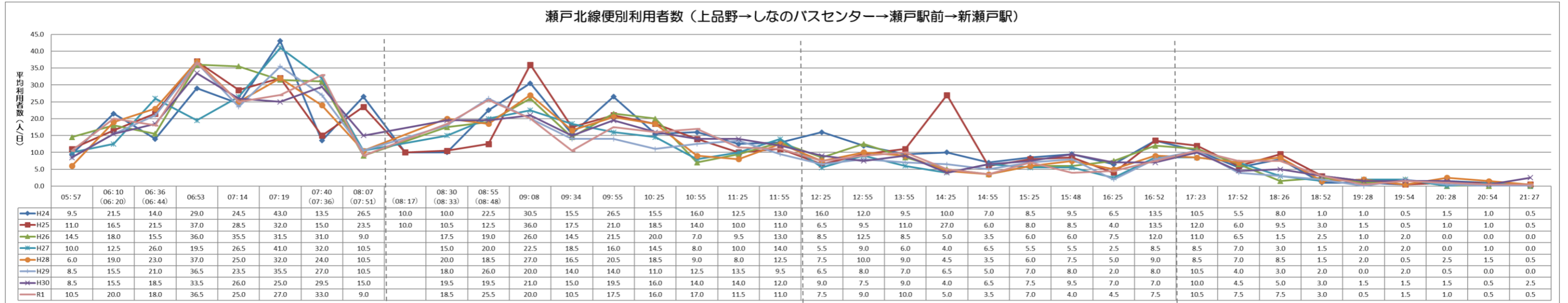
- ・ 瀬戸駅前のOD調査における乗降者数は減少がみられる。主に、通勤・通学時間帯で乗降者数の減少がみられる。(H24年：179人/日 → R1年：152.5人/日)
- ・ H27年以降、大松のOD調査における乗降者数の減少がみられる。
(H27年：52.0人/日 → R1年：40.0人/日)
- ・ H28年以降、祖母懐橋では、通勤・通学の時間帯でOD調査における乗降者数の増加がみられる。
(H28年：4.5人/日 → R1年：9.5人/日)
- ・ 太子町ではH27年以降、OD調査における乗降者数の増加がみられる。
(H27年：2.0人/日 → R1年：7.0人/日)
太子町バス停付近で宅地開発が進んだことも一つの要因として考えられる。

空白ページ

2 便別利用者数の推移

(1) 瀬戸北線

※ () 内は平成 25 年度までのダイヤ。



【始発から通勤・通学時間帯の利用状況】

- ・ OD 調査において、通勤通学時間帯の乗降者が、全体の 43% を占めた。
- ・ 乗降者数のピークは 6:53 しなのバスセンター発の便である。

【通勤・通学時間帯を除いた午前中の利用状況】

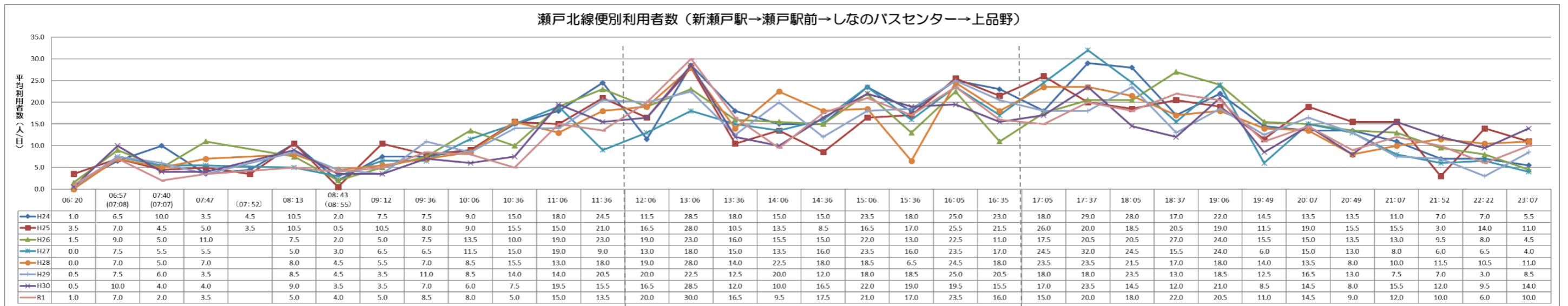
- ・ しなのバスセンター発 9 時台 3 便（9:08、9:34、9:55）で、OD 調査における乗降者数の減少がみられる。
- ・ 陶生病院前では、1 便あたり平均して、3~4 人程が降車している。

【夕方までの利用状況】

- ・ 12 時から 16 時台までは、瀬戸駅前での降車は概ね 5 人前後である。

【帰宅時間帯から最終便までの利用状況】

- ・ 19 時以降は、1 便あたり平均して 1.0 人の利用がみられる。



【午前中の利用状況】

- ・ 午前中では 11:06 瀬戸駅発の便で OD 調査における乗降者数が多くみられる。（調査日の 2 日間ともに、陶祖公園で 5 人下車したことが確認できる。）
- ・ 陶生病院からの乗車（通院帰りと推測される）は、10 時以降の便でみられる。

【夕方までの利用状況】

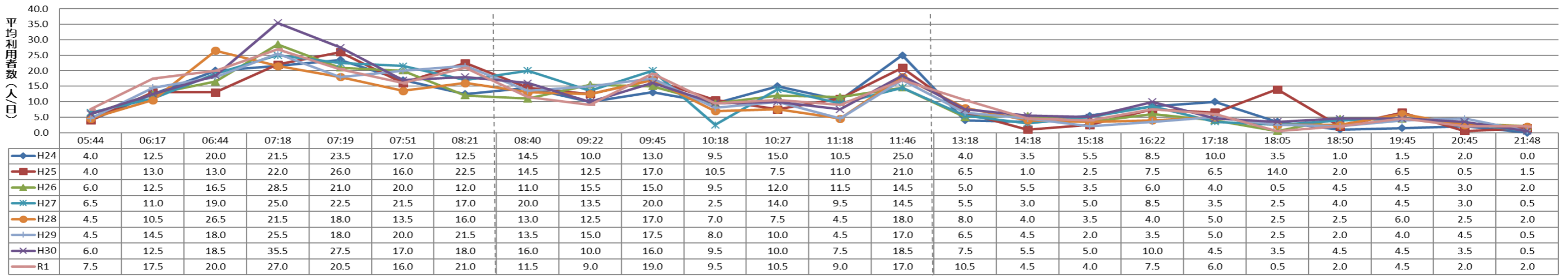
- ・ 正午から夕方までの OD 調査における利用状況としては、新瀬戸または瀬戸駅前から乗車する利用者が多くみられ、古瀬戸、伍位塚、品野坂上、品野火の見下、しなのバスセンターでの下車が多くみられる。

【帰宅時間帯から最終便までの利用状況】

- ・ 帰宅時間帯から最終便にかけて、OD 調査における主な乗車は瀬戸駅前からである。
- ・ それぞれ、古瀬戸、伍位塚、品野坂上、品野火の見下、しなのバスセンター等での下車が多い。

(2) 水野循環線・みずの坂線

水野循環線・みずの坂線 便別利用者数（南行き・左回り）



【始発から通勤・通学時間帯の利用状況】

- ・ OD 調査における利用者のピークである中水野駅 7:18 発の便では、北みずの坂、はぎの台、西陵地域交流センター前、南山中学前からの利用が多くみられる。
- ・ 瀬戸北総合高校前での利用（生徒による利用と推測）は、8:21 中水野駅発の便でみられる。平均して 5.5 人が乗車している。

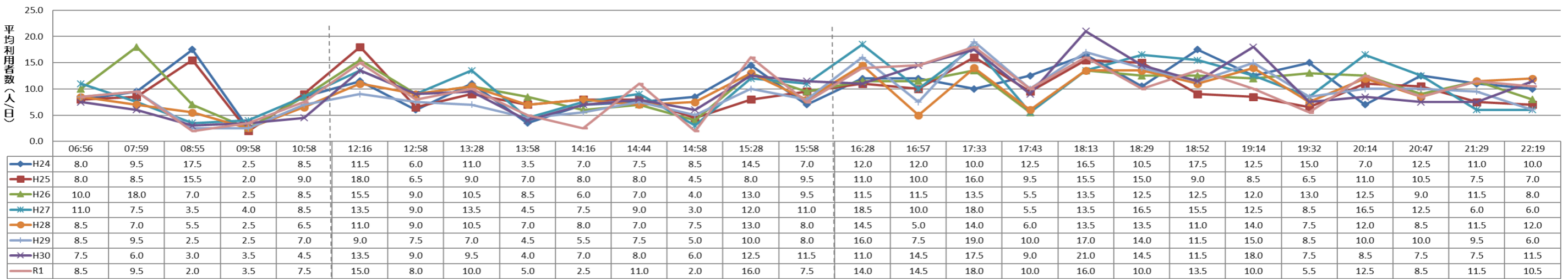
【通勤・通学時間帯を除いた午前中の利用状況】

- ・ 水野団地、西陵地域交流センター前から乗車し、新瀬戸で降車する利用者が OD 調査では多くみられた。

【午後利用状況】

- ・ 午後は乗降者数の少ない時間帯が続く。
- ・ 午後の時間帯において、中水野駅からの OD 調査における乗車は 1 日あたり 10 名程である。

水野循環線・みずの坂線 便別利用者数（北行き・右回り）



【始発から通勤・通学時間帯の利用状況】

- ・ 7:59 新瀬戸駅発の便では、OD 調査において 1 日平均 7.5 名が瀬戸北総合高校前で降車（生徒による利用と推測）している。
- ・ 6:56 新瀬戸駅発の便における、主な乗車ははぎの台、水野団地、みずの坂 1 丁目、みずの坂 3 丁目からである。

【昼過ぎから夕方利用状況】

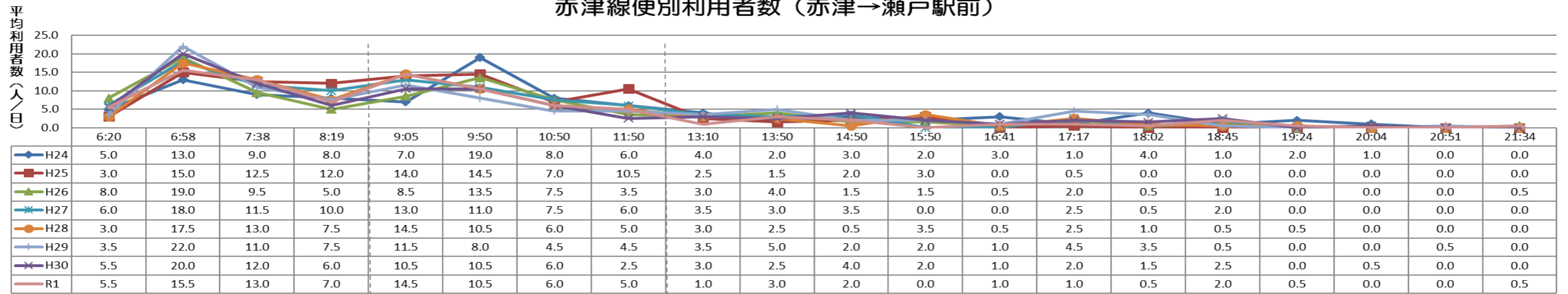
- ・ OD 調査における主な乗車は新瀬戸駅からである（1 便あたり 7.4 人が乗車）。また、主な降車は、南山中学前、西陵地域交流センター前、水野団地、はぎの台である。

【帰宅時間帯から最終便までの利用状況】

- ・ OD 調査における主な乗車は新瀬戸駅からである。（1 便あたり 10.5 人が乗車）また、主な降車は、南山中学前、西陵地域交流センター前、水野団地、はぎの台である。

(3) 赤津線

赤津線便別利用者数（赤津→瀬戸駅前）



【始発から通勤・通学時間帯の利用状況】

- ・ OD 調査における乗降者数のピークは 6 : 58 赤津発の便である。
- ・ 他のバス停と比べて、大松からの乗車が多くみられる。始発から通勤時間帯で 1 便あたり 3.1 人が乗車。
- ・ 瀬戸駅前での降車は、始発から通勤時間帯で、1 便あたり 9.25 人。

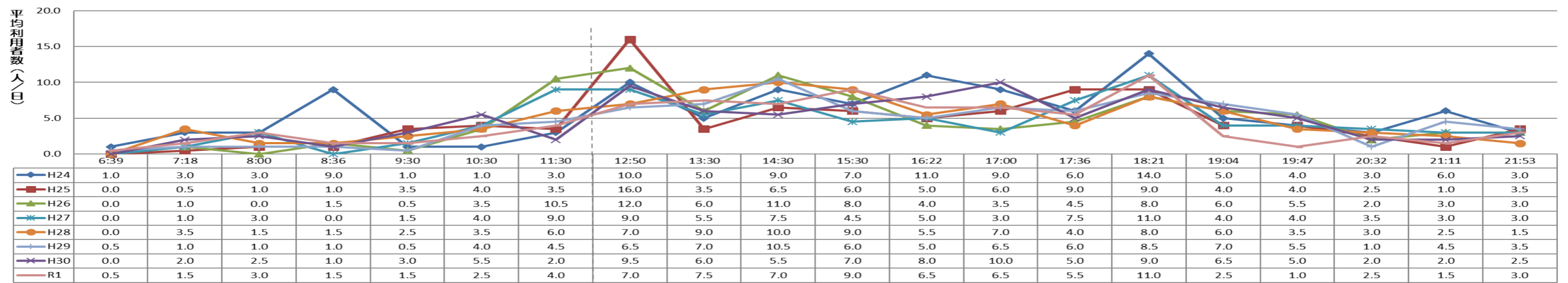
【9時から11時台の利用状況】

- ・ OD 調査において、大松からの乗車数が高い。9 時～11 時台の平均は、1 便あたり 1.5 人。
- ・ 降車の多くは、瀬戸駅前で見られ、9 時～11 時台の平均は 1 便あたり 7.1 人である。

【午後の利用状況】

- ・ 午後以降、OD 調査における乗降者数は減少がみられ、全く乗降者のいないバス停は、調査日初日で 11 か所、調査日 2 日目で 9 か所みられた。

赤津線便別利用者数（瀬戸駅前→赤津）



【午前中の利用状況】

- ・ 調査日の 2 日間、午前中の乗車は全て瀬戸駅からのみである。その他のバス停からの乗車はみられなかった。（降車は一里塚と大松で見られた）

【午後の利用状況】

- ・ OD 調査において、午後の時間帯の乗車は 90%以上が瀬戸駅からである。一里塚、塩草、新明町、古瀬戸、大松が主な降車地である。
- ・ 午後の時間帯では、15 : 30 (9.0 人/日) と 18 : 21 (11.0 人/日) の瀬戸駅前発（一里塚経由）で OD 調査における乗降客数が多くみられた。大松、一里塚が主な降車地である。